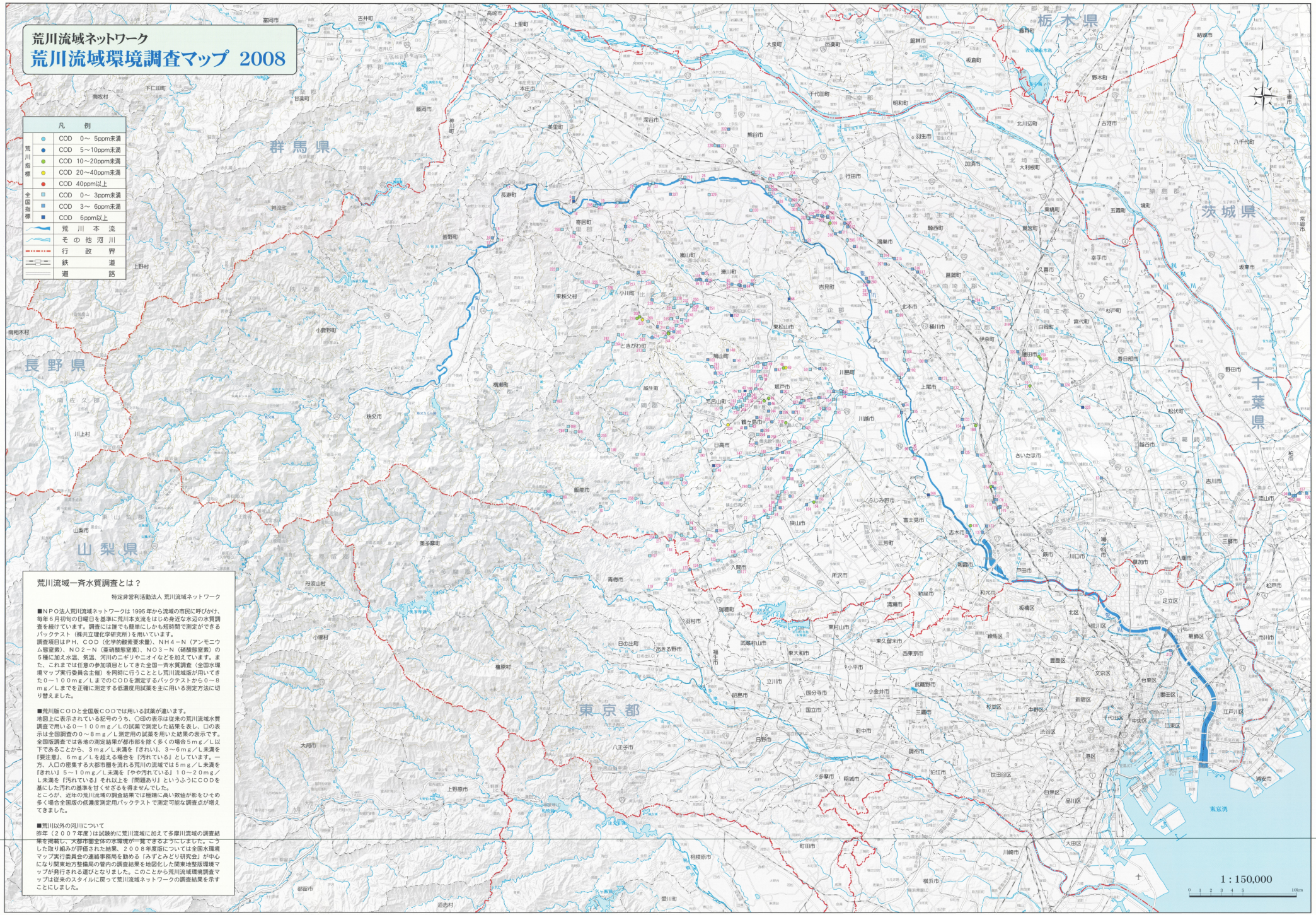
荒川流域ネットワーク
荒川流域環境調査マップ 2008



荒川流域一斉水質調査とは？

特定非営利活動法人 荒川流域ネットワーク

■ＮＰＯ法人荒川流域ネットワークは 1995 年から流域の市民に呼びかけ、毎年６月初旬の日曜日を基準に荒川本支流をはじめ身近な水辺の水質調査を続けています。調査には誰でも簡単にしかも短時間で測定ができるパックテスト（株式立理化学研究所）を用いています。
調査項目はＰＨ、ＣＯＤ（化学的酸素要求量）、ＮＨ４－Ｎ（アンモニウム態窒素）、ＮＯ２－Ｎ（亜硝酸態窒素）、ＮＯ３－Ｎ（硝酸態窒素）の５種に加え水温、気温、河川のニギリやニオイなどを加えています。また、これまでは任意の参加項目としてきた全国一斉水質調査（全国水環境マップ実行委員会主催）を同時に行うこととし荒川流域版が用いてきた０～１００ｍｇ／Ｌまでの ＣＯＤを測定するパックテストから０～８ｍｇ／Ｌまでを正確に測定する低濃度用試薬を主に用いる測定方法に切り替えました。

■荒川版ＣＯＤと全国版ＣＯＤでは用いる試薬が違います。
地図上に表示されている記号のうち、○印の表示は従来の荒川流域水質調査で用いる０～１００ｍｇ／Ｌの試薬で測定した結果を表し、□の表示は全国調査の０～８ｍｇ／Ｌ測定用の試薬を用いた結果の表示です。全国版調査では各地の測定結果が都市部を除く多くの場合５ｍｇ／Ｌ以下であることから、３ｍｇ／Ｌ未満を『きれい』、３～６ｍｇ／Ｌ未満を『要注意』、６ｍｇ／Ｌを超える場合を『汚れている』としています。一方、人口の密集する大都市圏を流れる荒川の流域では５ｍｇ／Ｌ未満を『きれい』５～１０ｍｇ／Ｌ未満を『やや汚れている』１０～２０ｍｇ／Ｌ未満を『汚れている』それ以上を『問題あり』というふうにＣＯＤを基にした汚れの基準を甘くせざるを得ませんでした。
ところが、近年の荒川流域の調査結果では極端に高い数値が影をひそめ多く場合全国版の低濃度測定用パックテストで測定可能な調査点が増えてきました。

■荒川以外の河川について
昨年（２００７年度）は試験的に荒川流域に加えて多摩川流域の調査結果を掲載し、大都市圏全体の水環境が一覧できるようにしました。この取り組みが評価された結果、２００８年度版については全国水環境マップ実行委員会の連絡事務局を勤める「みずとみどり研究会」が中心になり関東地方整備局の管内の調査結果を地図化した関東地整版環境マップが発行される運びとなりました。このことから荒川流域環境調査マップは従来のスタイルに戻って荒川流域ネットワークの調査結果を示すことにしました。

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の２０万分の１地勢図及び数値地図５０ｍメッシュ（標高）を使用したものである。　（承認番号　平１７総使、第１２号）

制　作：特定非営利活動法人荒川流域ネットワーク
制作協力：国土交通省関東地方整備局荒川上流河川事務所／株式会社中央ジオマチックス